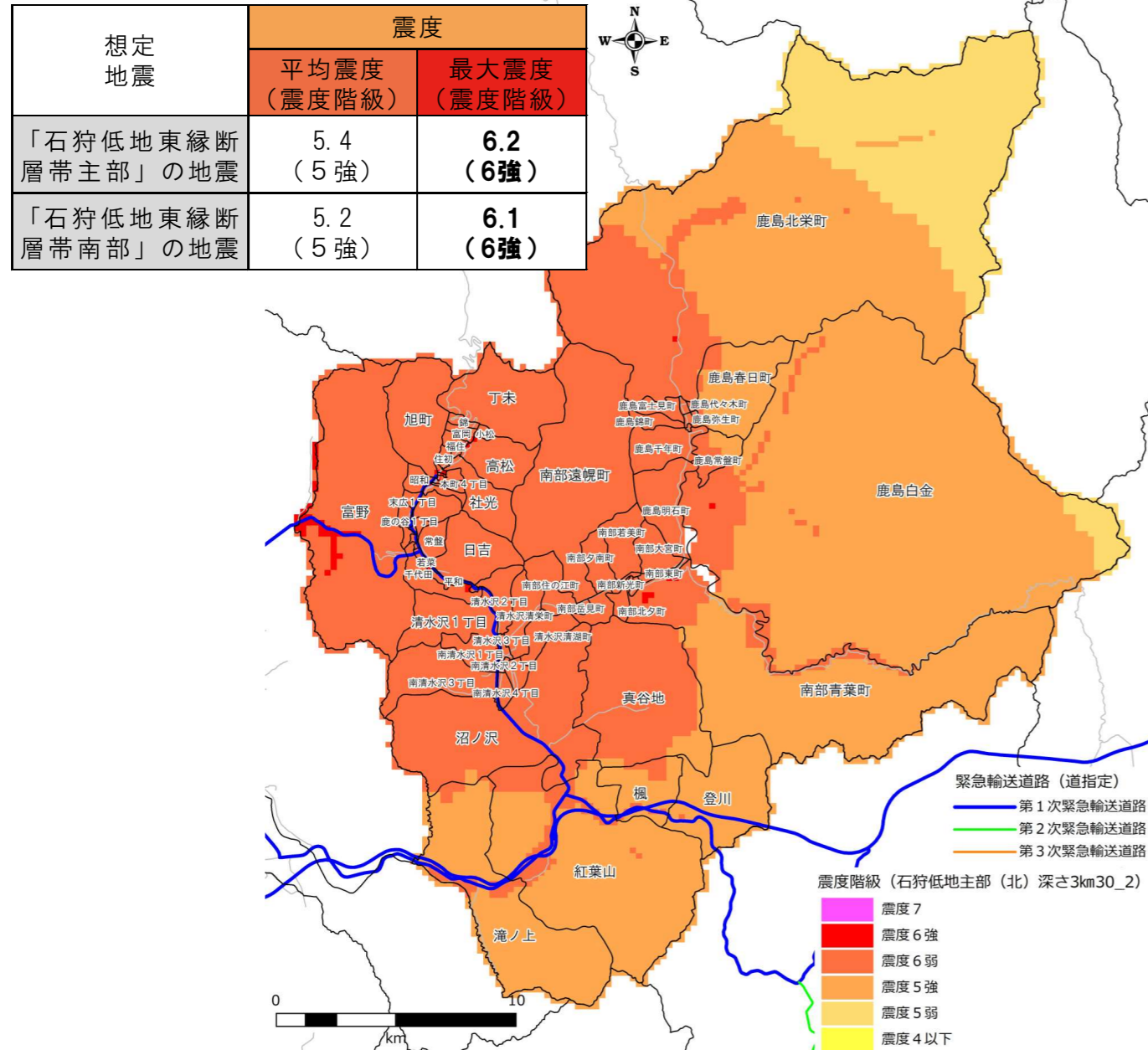


# 夕張市で大きい被害が想定される地震と震度

## 揺れやすさマップとは？

◇揺れやすさマップは、夕張市に影響のある活断層の地震が発生した場合の震度の最大値を表現した震度分布図です。(250mメッシュ)

◇夕張市では「石狩低地東縁断層帯主部の地震」による揺れが最大となり、市内全域で震度5弱以上、国道沿いの市街地では過半が震度6弱以上となっています。

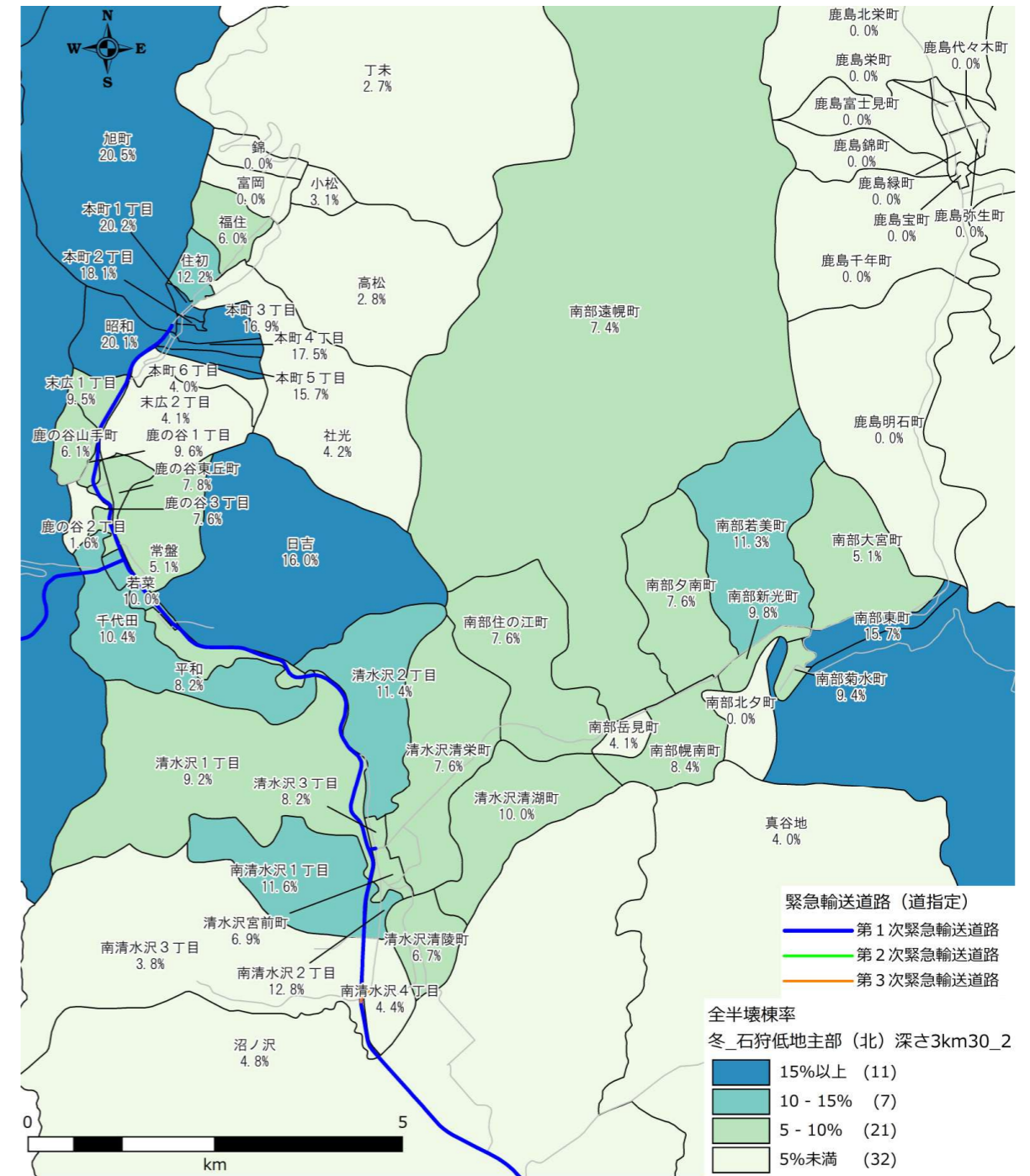


	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
震度6強	立っていることができず、這わないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
震度6弱	立っていることが困難になる。	安定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
震度5強	大半の人が、物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが増える。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。

# 夕張市における想定地震による被害

## 被害想定マップとは？

◇被害想定マップは、地震による揺れによって発生する建物被害の分布を表したものです。図は「石狩低地東縁断層帯主部の地震」における地区別被害を全半壊率として示しています。地区の建物が受ける被害が大きいほど、全半壊率のパーセンテージは高くなります。



## 家具や家電製品の地震対策をしましょう

住宅の全壊は免れても、ガラスの飛散やタンス等の大型家具の転倒、テレビや電子レンジ等の電化製品が飛んでくるといった、日常の生活からは想像できない事態によって、思わぬケガをしたり、避難が遅れて火災に巻き込まれたりすることがあります。

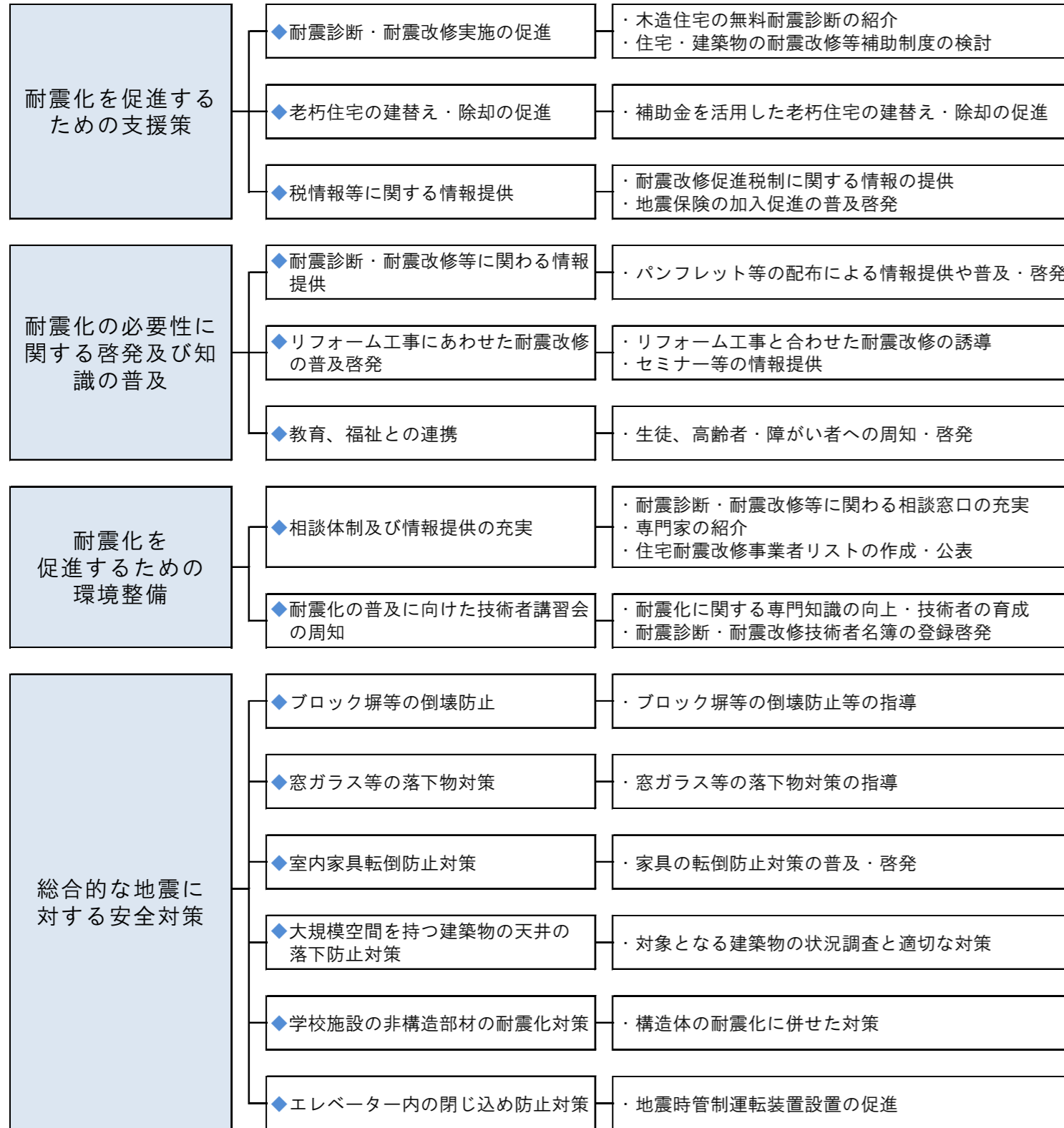
## 地震対策として考えられるもの

- ◆固定器具を用いて家具や電化製品を固定する。
- ◆食器類の収納物が飛散することがないように、扉の開閉を防ぐ器具を取り付ける。
- ◆睡眠や食事をする場所の近くに、家具や電化製品をなるべくおかない。
- ◆家具の中では、下に重いものの上に軽いものを置く。
- ◆ガラス面には飛散防止フィルムを貼る。

# 住宅の耐震化を促進します

## 耐震診断及び耐震改修を図るための支援策

夕張市は住宅・建築物の耐震化の目標達成に向けて、住宅・建築物の所有者が自らの問題・地域の問題という意識のもと、地域防災対策に取り組むよう努めます。施策の展開にあたっては、次の4つを基本的な柱として、国や北海道の補助金や交付金の活用検討も含め、効果的・効率的に実施します。



# 夕張市耐震改修促進計画

夕張市では、令和4年3月に『夕張市耐震改修促進計画』の見直しを行いました。計画は耐震性に不安がある既存の建物（旧耐震基準で建築された既存建築物）の地震に対する安全性の向上を、計画的に進めて行くものです。ここでは、夕張市耐震改修促進計画の概要について紹介いたします。

## 計画の目的

夕張市耐震改修促進計画（以下、「本計画」という。）は、安全・安心なまちづくりを推進するため、夕張市区域内の建築物の耐震診断及び耐震改修等に関する目標を設定し、基本的な方向や具体的な方策などについて定め、今後の夕張市における建築物の耐震化施策を総合的かつ体系的に推進することを目的としています。

本計画は、平成24年度に策定し、平成29年度に見直しを行いました。その後全国各地で大地震が頻発し、今後もいつどこで発生してもおかしくない状況にあり、甚大な被害を生じることが懸念されます。このような中、国においては平成30年12月に新たな耐震化率の目標が示され、北海道においても令和3年4月に「北海道耐震改修促進計画」の見直しが行われております。本計画はこれら国や道の取り組みはもとより、これまでの本市における耐震化施策の実施状況及び検証を踏まえて、旧耐震基準で建築された既存建築物の地震に対する安全性の向上を、より一層計画的に推進して行くこととします。

## ■ 夕張市における地震の想定 ■

想定される最大の揺れ  
**震度6強以上**

本市に大きな被害をもたらす地震は、①「石狩低地東縁断層帯の地震」、②「富良野断層帯西部の地震」、③「増毛山地東縁断層帯の地震」が想定されます。なお、石狩低地東縁断層帯では震度6強以上の揺れが予測されます。  
\*詳しくは裏面「ゆれやすさマップ」をご覧ください。

## ■ 人的被害・建築物被害の想定 ■

想定される最大の被害  
**負傷者37名、全半壊330棟**

想定の結果は、震度が最大となる石狩低地東縁断層帯地震が起きた場合の想定で、人的被害は負傷者37名、また、建物の全半壊棟数は330棟と想定されます。  
\*詳しくは裏面「被害想定マップ」をご覧ください。

## 建築物の耐震化に係わる目標

夕張市においては、想定される地震による町内の建築物被害を半減させるため、「住宅及び多数のものが利用する特定建築物の耐震化率を2025年（令和7年）までに**95%**にすることを目標とします。」

## ■ 住宅の耐震化の現状と対策 ■

夕張市における民間住宅等は、令和3年度現在5,528棟あり、耐震化率は約8.5割で約850棟程度が耐震性のない住宅と想定されます。今後、住宅の耐震化率の向上に向け、新築住宅の取得やリフォームに対する支援の他、老朽住宅の除却に対する支援等により住宅更新を促し95%を目指します。